

容を直接説明する。著名人も呼んでお祭りのな楽しいイベントにする案もあるが、資金がかかるので、学会の規模がある程度大きくないと困難。

- ・一般受けしそうな発表は平易に書き直した抄録を冊子としてまとめて配布する。さらに科学専門の記者などの投票で賞を設ける。学会の規模によるが10%くらいが受賞できて受賞歴に書けるようにする。
- ・学会の大会でハッシュタグをつけてツイッターで面白い発表についてコメントする。

その他の意見・要望

- ・税制を改革して、科学・技術研究に寄付を行った時の節税のメリットを大きくする。これによって、研究者は、国民に対してより真剣に自分の研究の重要性や意義を説明するようになることが期待できる。
- ・民放テレビの「おもしろおかしい路線」や疑似科学を野放しにしてはいけない。
- ・VIIで議論されているような分野横断的な組織のネットワークにマスコミ関係者や小中高校の教員などが科学・技術関係の質問を投げ込み、双方向性で議論ができるような窓口をつくと良い。

VII. 分野横断的な科学・技術研究者の組織の立ち上げ

事業仕分けによるいささか乱暴とも感じられる決定を受けて、私たち研究関係者の間で様々な議論がまきおこりました。特定の場所に集まって議論し提言をまとめる形式の集会在各所で行われ、ブログやソーシャルネットワーキング、ツイッターなどのネット上で膨大な量の議論もなされました。また、内閣府や文部科学省も大規模にパブリックコメントを募集し、研究者や一般の国民から多数の意見が送られました。

このような議論の中で私たちが気づいたのは、米国のアメリカ科学振興協会（American Association for the Advancement of Science; AAAS）のような、一般の研究者でも参加できる分野横断的な科学・技術研究者の大きな組織が日本にはないことでした。このため、各所で行われた提言が必ずしも現場で研究を行う一般研究者の声を反映した具体的内容を含んだものにはなっていなかったり、個々の意見は出されるもののまとまった意見として集約されていなかったり、ノーベル賞受賞者のような権威ある研究者によるご意見がとりわけ大きな影響力を持つ傾向があるなどの問題点がありました。また、パブリックコメントについては意見の集計がなされ、それがその後の施策に反映されたことは評価できますが、パブリックコメントを送る母集団にバイアスがかかり研究者コミュニティ全体の意見を必ずしも反映していないだろうことや、コメントが一方向性であって議論にはなっていないことなどの問題点が指摘されています。

そこで、私たちは、我が国で、研究者間の協力とコミュニケーションを促進し、研究者とそれを取り巻く環境の最適化を図り、科学界からの情報発信を奨励し、人類の幸福のための科学・技術をサポートすることなどを目的とした、高名な研究者だけでなく誰でも加入できる研究者の組織の設立を行うことを提案いたします。アンケート9では、研究関係者の88%が、分野横断的な研究者の組織を立ち上げたほうが良いと答えています。この組織では、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、簡易アンケートシステム、ツイッター、Ustreamのような新しい情報通信技術を主要コミュニケーションツールとして用いて、研究関係者の考えや意見を効率的に集約し、各種の科学・技術政策の意思決定に活用していただくことを目指します。また国民の方々の科学コミュニケーションにも活かします。すべての分野の研究者が気軽に容易に情報交換・意見交換などのコミュニケーションをすることができることになり、新しいイノベーションが生まれやすくなることも期待できます。

継続した検討を要する事項

分野横断的な科学・技術研究者の組織のメンバーシップ

・アンケート9では、研究関係者の46%の方が「誰でも参加できるようなもの」、42%の方が「所属や学位の有無で参加制限をかけたもの」が良いという回答。